

## 平成 23 年度 第 2 回 CCC 社会学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時 : 平成 23 年 9 月 30 日 (金) 10:30 から 12:00 まで

II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者: 津田委員、土屋委員、奥村委員

(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

### IV. 議事概要

#### 1. 検討内容

「学士力実現に必要な ICT 活用の授業モデル案のまとめ」

学士力の到達目標 1、3、5 を実現するために、各委員が作成した授業モデル案を検討する予定であったが、それに先だって、各項目の趣旨についての確認がなされた。そこでは、すでに作成されている国際関係学、社会福祉学の「中間まとめ案」を参照しながら、以下の方針が示された。

(1)「授業のねらい」は、現在の教育がもつ「問題」を提示し、その「解決」を考えていく形で「提案」をすることにする。

(2)重要なポイントは、この「解決」をどういう「授業のしくみ」で実現するか、ということである。質保証をどうするか、4 年間継続して力を身につけることができるしくみとして活用できる大きな枠組みをまず考えていく必要がある。

(3)「授業シナリオ」としては、シラバスでもひとつの授業のシナリオではなく、「質保証に向けた卒業までの枠組み」を提示する。

(4)シラバスにあたる部分は、「学習内容・学習方法」で示す。

これについて、以下のような意見が出されたが、この方針が確認され、各委員が次回までに授業モデル案を修正し、それを次回委員会で検討することとなった。

・4 年間の質保証という考え方よりも、学生が自分で授業を主体的に選ぶことが重要ではないか。

・すでにここでねらいとされている授業は大学によっては実施されているところがあり、さらに先の提案をするには、漠然としたモデルではなく具体的な授業の現場を考えるべきではないか。

・タコつぼ化しているという議論もあるが、むしろそれは恵まれた大学であって、大学ごとに状況は大きく異なる。まず目の前の学生にどう力をつけさせるかを考えるしかない。

・個人として行うことには限界がある。複数の教員が連携できる体制づくり、大学としてのガバナンスをきちんと考えなければならない。

・ガバナンスが重要であることはわかるが、それだけだと具体性に欠ける提言になる。また、教員は学内業務や「改革」に疲弊しており、研究・教育に力を向けられる環境こそ必

要である。

- ・重要な点は、学生が学びの内容を自己と関連付けできていないことにある。それをゼミで行うか、他の授業で行うかといった仕分けも重要である。
- ・まず4年間取り組んでこういう力をつけるということを明確にしたい。詳細については、今回のモデルの次の段階である、事例まとめのさいに生かしていくことにする。

## 2. 次回までの宿題

この方針に従って授業モデルを修正・提案することが、次回までの宿題とされた。次回委員会は10月7日（金）11：00からとし、宿題は事前に送信するかこのとき持参する。

以 上